

## まえがき

名古屋大学年代測定総合研究センターは、平成 11 年度末に時限を迎えた年代測定資料研究センターを拡充して、平成 12 年 4 月 1 日から 10 年間の時限で発足した学内共同利用施設です。年代測定総合研究センターでは、二台のタンデトロン加速器質量分析計を有する世界唯一の機関として、タンデトロン年代研究分野および新年代測定法開発研究分野の二分野を構成してユニークな研究活動を進めております。

タンデトロン年代研究分野では、タンデトロン加速器質量分析計を用いて環境中に存在する  $^{14}\text{C}$  の濃度を測定することにより、考古学・地球科学をはじめとして人文科学から自然科学にわたる多くの分野での  $^{14}\text{C}$  年代測定および  $^{14}\text{C}$  トレーサー研究に取り組んでいます。新年代測定法開発研究分野では、CHIME 法などを駆使して地球誕生までの過去 46 億年の地球史を研究するとともに、 $^{10}\text{Be}$  を利用した新しい年代測定法の開発を行って、 $^{14}\text{C}$  では年代決定のできなかつた約 6 万年前から数百万年前までのイベントを解析する研究を進める計画です。

年代測定総合研究センターでは、自己点検・評価の一環として、年代測定資料研究センターから引き継いで毎年一回年度末にタンデトロン加速器質量分析計を利用した研究の学際シンポジウムを開催し、その講演内容を含めた論文集を業績報告書として出版しております。第 14 回目にあたる平成 13 年度のタンデトロン加速器質量分析計シンポジウムは、1 月 11 日と 12 日に豊田講堂第一会議室で開催いたしました。研究者や学生その他、一般からの参加も含めた 104 名の出席者を前に、6 件の特別講演と 15 件の一般講演、5 件のポスター発表が行われました。今回、ここに名古屋大学加速器質量分析計業績報告書(XIII)を刊行するのはこびとなり、ご協力いただいた関係各位に厚く感謝いたします。

名古屋大学年代測定総合研究センターでは、高性能なタンデトロン 2 号機による  $^{14}\text{C}$  年代測定と CHIME 法による年代測定の実施に加えて、 $^{10}\text{Be}$  法や K-Ar 法などを用いた年代研究ができる体制を整えつつあります。関係各位の一層のご支援・ご協力をお願いする次第です。

名古屋大学年代測定総合研究センター長  
鈴木和博